令和8年度　神奈川県立二宮高等学校学校運営協議会　議事録

日時　令和8年６月26日（金）15：45～17：00
会場　神奈川県立二宮高等学校（会議室）
司会　細田　高志　副校長
書記　竹内　仁美　　学校管理Ｇ　教員

参加者

委員

村上	猛	緑が丘地区長
近藤	優	一色地区長
新井	久美	一色小学校校長
藤田	和人	二宮西中学校校長
杉﨑	雅子	小田原短期大学保育科教授
松本	幸生	二宮町教育委員会　教育部長
二見	敏夫	同窓会長
白﨑	元英	PTA会長
丸野	薫	学校長

学校側

細田	高志	副校長
坂上	圭子	事務長
手塚	浩美	学校管理Ｇ　総括教諭
朝賀	千枝子	生徒支援Ｇ　総括教諭
小山	健太郎	学習支援Ｇ　総括教諭
田中	美沙	進路支援Ｇ　総括教諭
坂元	孝子	生活指導Ｇ　総括教諭
木原	幸太郎	ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育推進Ｇ
竹内	仁美	学校管理Ｇ　教員

欠席者

佐藤	潤一	教頭
飯川	裕太	ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育実践推進Gｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ

次　第

１　自己紹介

２　学校長より
学校における教育活動についての近況報告
今後の課題について

３　議事
（１）会長・副会長の選出
会長　　白﨑　元英（本校PTA会長）
副会長　丸野　薫（本校学校長）
（２）学校運営協議会制度について
資料の通り
（３）学校の基本方針について
①～⑤資料の通り
⑥各グループより
（１）学習支援G
〇今年度１年生の授業について、落ち着いて授業を行うことができている。昨年度決めた、「５分ルール」が徹底されてきた。また、生活指導Gで決めてもらっている、鍵閉め当番の教員が自然と生徒を授業に向かわせることができるようになっており、良い効果があると感じている。
〇授業改善は、生徒が「自然と授業に向かうことができる」ような方向性を模索している。

（２）生徒支援G
〇今年度の目標
・生徒活動の活性化
・地域貢献
〇今年度の行事について
・体育祭の実施
台風もあったが、全体として生徒が意識をもって取り組むことができた。
・文化祭
・学年レク
・部活動体験デー
今年度新たに設定
〇ボランティア・地域貢献等について

・地域の地区のお祭等にお誘いを受けているので、参加させていただきたいと考えている。

（３）進路支援G

〇総合的な探究の時間で、地域と連携

〇３年生の現状

〇インターンシップ増加傾向（保育園の職場体験）

〇１学年の上級学校・企業訪問

学年の意向で、すべての進路について見れるようなプログラムを計画している。

〇調査書や出願関係書類作成の際の事故防止

（４）学校管理G

〇今年度体育館での卒業式　実施不可

→ひらしん平塚文化芸術ホール

〇来年度体育館での入学式　実施不可

→小田原三の丸ホール

〇職員室オフィス改善　夏季休業中

〇諸会費の振替を6/3に実施

80名程度の振替ができてない現状がある。

（５）生活指導G

〇安心安全な学校づくりのため、身だしなみ・学校生活における指導を行っている。

〇昨年度と比較し、落ち着いている。

〇サポートドッグを実施

昨年度は2回実施していたが、今年度は3回実施としている。

〇校内巡回・登下校指導の強化

（６）ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ教育実践推進G

〇今年度指定８年目、受入れから７年目

つい５、６年前までは、「インクルーシブ」が知られていなかったが、企業でもD&Iという言葉が出てくるようになっており、社会にも浸透してきている事がわかる。

〇インクルーシブ教育

本校では、知的障害の生徒を受け入れている。

インクルーシブ教育は、特別募集枠の生徒だけでなく、一般募集の生徒の中で、障がいを持つ生徒も一緒に学習できる環境を整えることではないか。それを実現するために努めるという使命があると考えている。

〇全校生徒向けの研修を７月に計画している。

〇進路について
実際に障がい者雇用で業績が伸びるという研究結果もある。今後は、二宮高校の卒業生が社会で活躍していけるのだというアピールをしていきたい。

各グループからの報告に対しての質疑応答

（委員）
丸野校長の取り組み、かなり積極的にやっていただいていると感じている。また、学習支援グループの話の中にもあった「地道にコツコツ」というのは大変だが、ぜひ続けていただきたい。
「個別最適化の学び」が整っていくという期待が高まっている。
部活動の活性化による志望者増も、かなり期待している。

（委員）
インクルーシブ教育実践推進校ができた当時、小学校に通う保護者が喜んでいた。障がいを持つ子どもの保護者にとって、インクル校の存在意義は大きい。
二宮PTA連合会でも、式町氏を招き講演会を行う予定。

（委員）
学習支援グループについて、授業改善の中で、なにか具体的に変化したことがあれば教えてほしい。

→（総括教諭）よりこまやかになった。また、より授業開始　　時の生徒の姿勢を整えさせることを文言化してやってみようかと考えている。

→（校長）１年生の授業においては特に、ICT活用の充実が見られる。また、少人数による授業のためか、「学び合い」の姿勢も３学年の中では１年生がもっとも強く感じられた。

（委員）
「生活指導の方針について（お願い）」はどんな場面で保護者周知しているか。保護者の立場に立つと、どのように協力をしたら良いのか分かりづらいのでは。

→（総括教諭）
資料配付の際には十分な説明を職員からするようにしている。

（委員）
過去、町主催のリレーなどで二宮高校の生徒が活躍し、高校生の良いところを見る機会があったが、最近はそういった機会がなくなってしまったので、今後増えていってほしい。
生徒同士が交流していればインクルーシブと考える大人が多いが、そういうことではないのではないか。大人は障がいのあるなしで「支援」ということを考えるあまり対応が「過剰」になってしまっていることがあるのでは。むしろ子どもたちのほうが、意識せず自然体で接している。逆に、「インクルーシブ」という言葉がなくなってしまえば、かえって「インクルーシブ教育」を実践できるのではないかと思う。
障がいのある生徒を持つ保護者から、「小中学校では支援学級があるのに、なぜ「支援社会」はないのか。」という声があった。ぜひ、インクルーシブ教育実践推進校としての取り組みを充実させてほしい。
また、今年度の低倍率について在籍生徒はどんな受け止め方をしているのか。
→（校長）
中には、「がんばっているのに、悔しい」といっている生徒もいる。また、だからこそ、「今後はもっとがんばりたい」という気持ちになっている。

（委員）
バスの減便について、今後も減るという話がある。学校側は把握しているか。また、それに加えて、廃便ということも検討されているようだが、学校としてはどう考えるか。自治会として、町長には減便や廃便をしてほしくない旨伝えるつもりである。
→（細田　副校長）
バスのマナーについて生徒には再三注意している。
全校生徒が帰宅するような時間には臨時で増便をしてもらう依頼を学校からしている。

（委員）
ＰＴＡとして、今後も学校と生徒の橋渡しができるよう協力していきたい。

４　今後の予定について
資料の通り

以上